林業技術センター
普及班便り
（第15回）

あなたの山づくりを応援する林業普及
いわての林業経営者【その5】
◆一人親方からカンパニーへ

一　はじめに

前回に引き続き、一関市の素材生産業を経営する山田一宝さんを紹介します。今回は、意欲的に経営の改革に取組む姿を紹介します。

山田さんの家族

二　マンパワーからテクノパワーに

(1)　きっかけ

山田さんは、平成8年に、全国林業改良普及協会等が企画した「海外林業視察研修」の北アメリカコースに参加し、大きな衝撃を受けたそうです。その研修中に見たものとは、広大な森林の中で、何台もの大きな（運転席が二階建ての家ほどもある）高性能林業機械での伐採作業、その光景に「ドギモ」を抜かれたとのこと。その時、こう決心したそうです。これからの林業は『機械』だと。今では、素材生産作業用などに、グラップル6台、プロセッサ2台、フォワーダ4台、ホイルローダ2台、ブルドーザ2台、その他、松くい虫対策作業用などに、移動式チッパー1台、粉砕機1台、等々。県内でも、これだけの機械を保有し経営している素材生産業者は数少ないのではないでしょうか。

保有する林業機械の一部

(2)　経営改善へ

県主催の平成20年度「森林経営意識改革セミナー」を受講し、経営改善に取組み、収益性向上を図ろうと精力的に行動する山田さんは、6月の京都府日吉町「日吉町森林組合」の研修を受講中や現地移動中、ひっきりなしに作業員から携帯電話が入るほど忙しい中でもセミナーを受講しています。機械化林業の経営改善に取組む意気込みが伝わってきます。

私の仕事場と指差す

三　㈲山一木材から山一木材㈱に

(1)　年間素材生産取扱量5千㎥

2代目として先代から引継ぎ、順調に業績を伸ばし、高性能林業機械オペレーターを中心に9人の従業員を抱えるまでに成長しました。年間素材生産取扱量5千㎥まで取り扱う程になった今でも、「まだまだ少ない」と話しています。上昇志向の考え方がここまで会社を成長させる原動力となっているのです。

(2)　山一木材㈱誕生！

先代が一人親方で創業してから40年余り、現在は、有限会社から株式会社に社名を変更するため手続き中とのこと。間もなく山一木材㈱が誕生する予定とか。

四　3代目後継者は中学2年生

(1)　お父さんと一緒の仕事をしたい

長男、長女、2人の子供に恵まれその長男が、「お父さんの様な仕事を、お父さんと一緒にしたい」と話していると、こぼれる笑顔で嬉しそうに話す山田さんです。

長男は、地元の学校に通う中学2年生（13歳）。やはり、親の血を引くものだと感心させられるばかりか、微笑ましくもある親子の姿でした。

3代目後継者の長男と

林業技術センター　普及班